

前年度の学校評価

1 自己評価結果等

本年度の 重点目標	① 各教科等における授業・実践力の向上 ② ICTを効果的に活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ③ 生徒指導上の規範意識の向上及び多様な背景をもつ生徒に寄り添った指導・支援の充実 ④ 一人一人に応じた自立活動の充実及びキャリア教育の推進 ⑤ 地域および関係機関との連携強化及び社会参加に必要な資質・能力の育成 ⑥ 社会情勢や学校の現状と課題を考慮した危機管理体制の構築		
※以下の各項目（分掌）の重点目標は、上記の「本年度の重点目標①～⑥」に関連した内容を設定した。			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	経過報告と今後の課題
学校生活の 充実 (高等部)	「職業自立」 の支えとなる 「生活自立」 に向けた教育 活動及び指導 の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本宮校舎が目指す「生活自立」についての三つの柱を共通理解し、授業改善や指導方法の検討をする。</li> <li>・ロイロノートの効果的な活用について授業例を共有する。</li> <li>・生徒指導部、各学年と連携し、身だしなみ、登下校（公共の場）でのマナー、コミュニケーション（SNS利用、挨拶、言葉の選び方）、粘り強さ（課題に向き合う姿勢、自己理解）に重きを置いた指導を継続する。</li> <li>・あらゆる視点での生徒の情報共有や教育活動の検討ができる機会を設定する。</li> </ul>	各学年、教科、工業・流サの主務者からの発信を中心に実践した。年間を通した取組の中で各職員が特に「生活自立」を意識した授業内容、生徒へのかかわりをまとめた。共有し、より掘り下げて重点項目を設定し、指導に生かす。 乗車指導、生徒情報の共有時間の定期化により、生徒の現状と指導方針を全職員で確認することができている。また、月に1回程度設けた自由設定の日は、8割を超える職員が「有意義な時間」「おおむねよい時間」にできたと回答しており、よりよいあり方を模索し継続する。
	①②③⑤		
学習指導の 充実 (総務部)	ICTを効果的に活用するための環境整備、啓発を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノートの研修、授業実践を行い、多くの職員に情報を提供し利活用につなげる。</li> <li>・ホームページを定期的に更新する。また、魅力あるホームページの工夫をする。</li> </ul>	夏期休業中にロイロノートの研修を行い、いくつか実践事例を挙げて職員の利用促進につなげる取組を行った。また、ホームページでは、更新の言葉掛け、編集補助をし、定期的な更新につなげることができた。来年度からのBYOD端末の使用に向けた利用規程の策定が課題である。
	①②		
学習指導の 充実 (教務部)	個に応じた目標設定や学習指導の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業日誌を活用した目標設定や振り返りを行い、自己理解の向上を図る。</li> <li>・個やグループ別に応じた段階を示し、ニーズに応じた指導を展開する。</li> </ul>	作業について振り返りの体制を整えることで、長所や課題、課題改善の方法について教師と生徒がやり取りする時間が増えた。12月に実施したアンケートでは、年度当初と比較し、自己の特長や課題、課題解決方法について認識している生徒が増加傾向にあった。（長所88%、課題98%） 現職研修で個別最適な学び、協働的な学びについての取組事例を紹介するとともに、教科会にて実践方法を話し合う機会を設定した。今後は、個別最適な学びの実践を通して、資質・能力の確実な習得や学習意欲の向上につなげたい。
	①②④		
規範意識の 向上と自己 指導力の獲得 (生徒指導部)	いじめ問題をはじめ、生徒指導事案に対して役割を明確にしてチームで対応する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止基本方針の内容や生徒指導ガイドラインについて校内で研修を行い、周知を図る。</li> <li>・いじめ防止基本方針や生徒指導ガイドラインに沿って、いじめや問題行動の未然防止、早期発見に係る生徒への指導及び取組を行う。</li> </ul>	年度初めに職員に向けていじめ基本方針を周知し、生徒指導に関わる研修を行った。 6月に「こころとからだの健康アンケート」を実施した。4名の生徒がいじめられたと回答した（「悪口」や「からかい」）。担任の聞き取り後、職員間で情報を共有した。
	③⑤		

	生徒、教員の防災意識を高め、非常時に備える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常時の対応について周知する。</li> <li>・外部講師を招いた防災学習を実施し、非常時の行動や事前準備について学ぶ機会を設ける。</li> <li>・より実践的な避難訓練を実施する。(余震の発生、トリアージ等)</li> </ul>	<p>南海トラフ臨時情報発令時等、非常時の対応について一部改訂し、保護者、生徒に周知した。防災マニュアルの周知、理解が課題である。</p> <p>外部講師による防災学習では、ハザードマップの見方を学習し、自宅付近の避難所を各生徒が確認した。また時期に応じた内容の防災学習を定期的に行うことで命を守る行動を考えることができた。</p>
	⑥		
健康の維持増進 (保健体育部)	生徒が自分で気付く安全教育を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自分でヒヤリハットに気付けるよう、各教室にヒヤリハット報告書を常備する。</li> <li>・生徒が自分で熱中症の予防と応急手当ができるように、通学かばんにハンドブックを携帯する。また、プレクーリングなどの対策を職員と生徒に周知する。</li> </ul>	<p>授業以外の場面で、自分で危険を予見したヒヤリハットが、のべ65枚提出された。</p> <p>担当者が対応後、グループウェアで全職員に周知した。提出率は91.5%であった。</p> <p>No.1~No.31の事案については、保健委員会が校内地図にまとめて文化祭で展示発表した。年度末に保健委員会が、その傾向を壁新聞にまとめた。</p>
	①③⑥		
進路指導の充実 (進路指導部)	生徒が社会で主体的に活躍できるよう、キャリア教育を推進し、社会参加に必要な資質・能力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の障害者理解を促進するとともに、企業から「働くうえで必要な力」を聞き取り、相互理解を深める。HPやスクールエンジンに掲載し、生徒、保護者、職員の進路意識向上につなげる。</li> <li>・就労アセスメントシートを作成し、抽出自立活動等で活用する。的確な情報提供を行い、組織的・継続的に進路指導ができる体制を整える。</li> </ul>	<p>今年度、学校見学に来てくださった企業の方に「働くうえで必要な力」や「本宮校舎の作業を見て気になるところ」を聞き出すことができた。ホームページに掲載することはできたが、どの程度の保護者が閲覧しているのか分からないので、保護者向けにどう伝えるかが今後の課題である。</p> <p>今年度は就労選択支援事業も始まるため一般就労だけではなく、福祉的就労にも目を向けた。保護者には進路説明会、職員には現職研修を通し、知ってもらった。生徒には「職業」の授業を通して伝えた。引き続き行っていきたい。</p> <p>1年生の校内実習で、就労アセスメントシートを活用し、評価を棒グラフなどで表すなど分かりやすく示した。Ⅰ期、Ⅱ期の結果を比較し、3月の進路相談で保護者には伝える予定である。</p>
	④⑤		
特別支援教育の専門性の向上 (研修部)	教員の資質向上のための研修体制を整え、自立活動の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職研修及び教職経験者研修を核として、計画的に研修会を実施する。</li> <li>・抽出自立活動を通して、個に応じた具体的な指導の充実を図る。</li> </ul>	<p>現職研修の反省アンケートをグループウェアで行うことで、回収率が80%以上になり、今後の研修内容改善につながった。アンケートを回答していない職員に対して声をかけていきたい。</p> <p>学期末に抽出自立活動の記録用紙を回収し学級担任、学年主任、管理職に回覧した。回収率は100%となり、記録をとることができたが、具体的な指導にどのように生かしていくかが今後の課題である。</p>
	①③④		
地域、関係諸機関との連携 (教頭)	本宮校舎の魅力向上と適切な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源(企業、町内会、商工会等)を積極的に活用し、授業改善、部活動の活性化を図ると共に、より効果的な生徒指導を行う。</li> <li>・情報発信の内容や頻度を見直す。</li> </ul>	<p>学校見学のために来校された方々に、対応した進路担当者や工業の担当者が授業改善に向けた助言を求め、多くのアドバイスを受けることができた。進路が窓口となったケースについては、その内容をHPにアップロードした。また部主事主導の下、株式会社トヨコンとの共同企画に取り組んだ。出張授業として社員の方にSDGsの視点で、取組の意義について説明をいただいた。引き続き、次年度も共同で製品販売を行う予定である。</p> <p>総務部の働きかけによって、HPの更新時期が大幅に短縮。また記事や写真の量も増加した。</p>
	①②③⑤		

総合評価	<p>いじめ問題では、生徒指導部が中心となり、認知された事案が重大化することなく、関係職員が迅速に対応し、解決することができた。各主任が、それぞれの持ち場でリーダーシップを発揮し、相互に連携を取り合う様子が見られた。</p> <p>保健体育部は、生徒が「ヒヤリハット」報告書に記入し、共有し、手立てを講じる、という取組を、年間通して実施した。それによって、けがの件数が前年度に比べ減少した。これは「安全教育の推進」という学習効果にとどまらず、生徒自身がよりよい環境を自ら設定しようとする「主体性の育成」というねらいも含まれている。他の校務でも同様の動きが見られている。主体性を育む機会を計画的に設定し、主体性の育成と協働的な学びをさらに推進していきたい。</p>
------	---

## 2 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別最適な学び、協働的な学びに向けた生活自立・職業自立に関する取組</li> <li>・いじめ防止・自己指導能力向上に向けた取組</li> </ul>
自己評価結果について	<p><b>個別最適な学び、協働的な学びに向けた生活自立・職業自立に関する取組について（教務部）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の方からの評価が、「真面目に働く」「指示どおり働く」から「よく考えている」「周りを見て行動できる」と変化。企業が求める人材の質的变化を感じる。「自己理解」は、その「求められる人材」として欠くことのできない力であると考え。</li> <li>・主体性を育むためには、教師は生徒を導くため先導し、寄り添いながら並走し、力をつけてきたタイミングで追走する。生徒の変容に伴い、教師のかかわり方が変化する。</li> <li>・長所はたくさんあっても大きな課題があると、長所よりも課題を指摘されるケースがある。</li> <li>・「素直さ」と「従順さ」が混同される。受け止めることもあれば、受け流すことも大切。「しなやかさ」を身に付けられるとよい。</li> <li>・本宮校舎の強みである「真面目に」「指示どおり」働くことのできる力に加え、これからは、チームの一員として協働する力、自ら考え行動できる力の向上を図りたい。現在、企業で求められる人材について、是非御教示いただきたい。</li> </ul> <p><b>いじめ防止・自己指導能力向上に向けた取組について（生徒指導部）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導ということばは、「悪いことをした生徒に対する指導」というニュアンスが色濃く残っている。しかし、それでは、一部の生徒しか対象とならない。生徒指導はすべての生徒にとって必要であり、それはいじめをはじめとする問題行動の未然防止につながる。そして、自己指導能力を獲得することが重要である。自己指導能力とは、適切な自己決定ができる力である。</li> <li>・最近の生徒の姿を見ると、チャレンジする、自分から行動することが少ない。それは受動的で、自己決定の機会も限定である。つまり、自己指導能力が獲得しづらい風潮である。例えば、体育の授業で、初めての競技に参加する。自信のない生徒のために、ルールを改編するなどによって、少しずつ参加しようとする意思が育まれることがある。</li> <li>・当初、「部活動に参加したくない」と訴えていた一年生の生徒が、大正琴の演奏をきっかけとして、先輩たちとのかかわりや、承認される機会が増えたことで、朝の部活動にも参加するようになった、という事例もある。授業や部活動などの日々の学校生活において、支援次第で、生徒が安心して、主体的に行動できるようになる。</li> <li>・これが、自己決定の機会につながり、自己指導能力を育む。生徒に「させる」指導ではなく、生徒を「支える」指導を意識して取り組んできた。</li> </ul>
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	<p><b>【企業代表取締役会長より】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、工業の時間を参観することが多かったが、今回は、ふだんの学校生活場面を見ることができた。リラックスして、笑顔も多く見られた。</li> <li>・数学では、考えることの楽しさを感じているようであった。また、国語では、「誰かを傷つけないように」という切り口で指導されていたことが印象的であった。</li> <li>・これまで製造業では、「言われたことをちゃんとやる」社員が多かった。しかし、リーダー一人が考える組織よりも、多くの人間が知恵を出し合う組織の方が発展する。</li> <li>・本社では、入社前に必ず、「みんなで助け合う」など、会社で重視していることを示し、「それができないのであれば、本社で働くことは苦痛です」と伝えている。そういったことが徐々に浸透し、「考える集団」、「助け合う集団」になってきている。</li> <li>・学生時代は、たくさんインプットし、入社したらそれをアウトプットしていくことになるが、本宮校舎では、学生であっても、アウトプットする機会が多いと感じる。卒業後もアウトプットできる人材ではないか。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会社が求める人材は、教務主任の指摘どおり、「きちんとやるべきことをやる」ことと、「チームの一員として自立する」という両面を備えている人。優れた実践をされていることがうかがわれた。生徒がついていけるように、先生方で導いていただきたい。</li> <li>【社会福祉法人施設長より】</li> <li>・真面目に、一生懸命授業を受けていた。授業の様子を見て、先生方のことばがけを聞き、今年度の取組について説明を受け、学校としての取組を理解することができた。</li> <li>・福祉の世界であっても、「指導」より「支える」「サポートする」ことを主眼に置いている。支えられた人は、次に、別の誰かを支える人になる。</li> <li>・どのような経験も無駄ではない。そのときに苦しい思いをしたり、つらくなったりした経験が、その後の人生にきっと役立つ。経験が少ない生徒は、自己肯定感も低い。本所では、現場を見て学ぶ、という取組を大切にしている。現場で聞こえる音、現場のにおい、温度、それらを感じる経験によって深く学ぶことができる。</li> <li>・生徒指導主事から紹介のあった、部活動に参加するようになった事例について。うまくいかない可能性もあった。背中を押したことがきっかけで、崩れることもあった。そのようなリスクをはらんでいながら、挑戦した。教師冥利に尽きるのではないか。</li> <li>・ひなは、親鳥が卵を割るのではなく、自分で内側から殻を破る。自分の力でしか殻を破ることはできない。そのきっかけづくりを、今後も続けていただきたい。</li> <li>【町内会長より】</li> <li>・年2回大木会館の清掃をしていただいている。とてもきれいになって、感謝している。</li> <li>・その後の座談会では、趣味や好きな話題になると、目が輝く。</li> <li>・生徒の「好き」を生かすことで自信を伸ばすことができると思う。</li> <li>【豊川商工会参事より】</li> <li>・社会との共生を大切に、地域とつながり、生徒の実態を知ってもらうことが大切。</li> <li>・会社側も、障害者雇用促進法があるから雇用するのではなく、障害のある方との共生を大切にしてほしい。そのためには、会社と生徒、そして先生が活発なコミュニケーションをとることが必要である。</li> <li>【一宮商工会副会長より】</li> <li>・授業では、積極的に意見を言い合える雰囲気を感じた。メモをとりながら、真剣に取り組んでいた。</li> <li>・障害のある子どもたちは、どちらかといえば、おとなしい性格である。なかなか自分から言い出せない。「ちょっと聞いていただきたいんですけど…」と自ら伝える力を伸ばしてほしい。</li> <li>・授業の中でも、話しやすい雰囲気づくり、環境づくりをしていただき、おとなしい生徒をすくいあげられるようにしていただきたい。</li> <li>【PTA 会長より】</li> <li>・娘が大木会館の清掃活動を行い、御褒美にお菓子をいただいて喜んでいて。しかし、御褒美のために働くのではなく、働くことが楽しい、と感じられるようになってほしい。</li> <li>・本宮校舎の生徒は、素直な子が多い。素直過ぎて、何でも受け入れる。本当に心から受け入れているのか、もしかしたら、怖くて反論できないだけかもしれない。ことばのかけ方次第で子どもの反応は変わる。その点は注意していきたい。</li> <li>・以前、木工の授業で擦り傷を負った。学校からすぐに連絡が届き、とてもありがたかった。工場では、けが、安全はとても重要。</li> </ul>
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の方から助言を受け、「チームの一員として行動できる力(柔軟に対応する、助け合う)」と「指示のとおりきちんとやりきる力」の両面の育成を目指す。</li> <li>・生徒が忌憚なく、自らの考えを伝えられる教師との関係性を築くとともに、生徒の表面的な反応のみで判断せず、生徒の本心を引き出す支援を丁寧に行う。</li> </ul>
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成 企業関係者、社会福祉法人関係者、豊川商工会、一宮商工会、大木町内会、PTA会長</li> <li>・評価時期 2月下旬</li> </ul>